

日本産鳥類記録リスト (3)

川路則友・平岡 考・池長裕史・梶田 学・亀谷辰朗・金井 裕・西海 功・柳澤紀夫(日本産鳥類記録委員会)

日本産鳥類記録委員会では活動の一環として、記録が極端に少ない種について、引用可能な文献として公表されたものの調査・収集・整理を行い「日本産鳥類記録リスト」として随時学会誌を通じて公表を行っている。今回は、ツグミ科の9種について調査結果を報告する。なお、この報告は学会による記録公認を意味するものではなく、掲載されている記録の妥当性などについては未検討であることに注意されたい。リストに掲載されていない文献記録をご存知の方は、記録委員会にお知らせいただきたい。また、未発表の記録をお持ちの方は、ぜひ、引用可能な文献としての公表をお願いします。このリストの趣旨についての詳細は日本鳥学会誌 51 (2): 132-133. 「日本産鳥類記録リスト」を参照されたい。委員会が過去に公表したリストや活動報告は、学会のホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/osj/>) にて閲覧可能なので、そちらもご覧いただきたい。

7. ヨーロッパコマドリ *Erethacus rubecula* (表1)

日本鳥類目録改訂第6版では、亜種の同定ができない、自然分布とするには疑問がある、論文として公表されていないとの理由から検討中の種としてAppendix Bに掲載されている。本委員会の調査により、文献上4例の記録が確認された(表1)。

記録1(亀谷 1991)は、千葉県市川市で記録されたもので、記録時の状況や記録された個体の形態的特徴などについて記述されている。それによれば、この個体は環境庁(当時)の標識調査中に捕獲され、環境庁リングを付したのち、各部の検査、計測、写真撮影を行ってから放鳥されている。同一記録は、山階鳥類研究所標識研究室(1991)にも掲載されており、翌日も再捕獲されたことや、計測値、装着された足環の番号についても記述されている。亀谷(1991)は、本個体について、「いわゆるかご抜けが持つ特徴が全くみられなかった」ことから、「野生個体であると考えざるを得ない」としている。山階鳥類研究所標識研究室(1991)も「野生の個体とするのが妥当であると思われる」と

表1. ヨーロッパコマドリ *Erethacus rubecula*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1990.11.18	千葉県	市川市行徳鳥獣保護区	第1回冬羽	—	1	亀谷辰朗, 原島政巳	捕獲, 標識	モノクロ1, 原島政巳	5	3, 4, 11
2	D	奈良県	大台ヶ原	—	—	—	—	—	—	6	1
3	1993.5. 1995.5.4	山形県	酒田市飛鳥	第1回冬羽~ 第1回夏羽	—	1	佐々木 均, 佐々木あさ子	観察, 撮影	モノクロ2	9	7, 8
4	D	山形県	酒田市飛鳥	幼鳥	—	1	天野洋祐	観察	—	2	—

—: 記述なし・掲載なし
D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

している。しかし、山階鳥類研究所 (1997) には、本種が含まれていない。山階鳥類研究所 (1997) は記録の扱いについて「不明種及び飼鳥の野生化したものを除く」と明記していることから、記録1の個体は、飼鳥の野生化したものと判断され、除かれたと推測される。なお、亀谷 (1991) には尾羽の写真のみ掲載されているが、同一個体の写真は、原島 (1991)、山階鳥類研究所標識研究室 (1991)、五百沢ら (2000) に掲載されている。

記録2 (真木・大西 2000) は、奈良県大台ヶ原で記録されたもので、鳴き声についての記述がある以外、記録日、記録者および観察状況などの詳細は記述されていない。なお、同一個体と思われる記録がバーダー編集部 (1993) に掲載されている。これは、岡林 猛氏からの情報として、奈良県上北山村大台ヶ原シオカラ谷にてヨーロッパコマドリ1羽が、岡林 猛氏、中川宗孝氏、中島昭氏によって観察されたとの内容であり、観察された個体についての簡単な形態的特徴、さえずりについての記述も掲載されている。ただし、こちらには記録年月日についての記述が全く欠如している。

記録3 (佐々木・佐々木 1999) は、山形県飛鳥で記録されたもので、観察時の状況や形態的特徴について詳細な記述が掲載されている。それによれば、この個体は、大雨覆羽や頭部羽色の特徴から第1回冬羽から第1回夏羽への移行時と推定されている。加えて、佐々木・佐々木 (1999) は、亜種の同定について、「亜種の特定はできなかった」、野生個体か否かの判断について「現段階では、この個体が自然渡来であるか人為的飛来であるかの判断は困難である」と考察している。なお、この記録は、日本野鳥の会 (1995)、日本野鳥の会野鳥記録検討会 (1996) にも掲載されている。

記録4 (バーダー編集部 1998) は、山形県飛鳥で記録されたもので、記録月日、場所、年齢、個体数、記録者のみの記述しかない。なお、記録年は明記されていないが、掲載雑誌の巻号から1998年と特定される。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部 (1993) 最近何か出てますか? 野鳥情報ネットワーク . BIRDER 7 (7): 68-69.
 2. バーダー編集部 (1998) 最近何か出てますか? 野鳥情報ネットワーク . BIRDER 12 (7): 84-89.
 3. 原島政巳 (1991) ヨーロッパコマドリ. 日本の生物 5 (2): 48.
 4. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版. (写真掲載は p. 159)
 5. 亀谷辰朗 (1991) ヨーロッパコマドリの標識放鳥. 日本の生物 5 (2): 37.
 6. 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥 590. 平凡社. 654 pp.
 7. 日本野鳥の会 (1995) フィールドノート. 野鳥 60 (9, 10): 51.
 8. 日本野鳥の会野鳥記録検討会 (1996) 野鳥情報・観察記録 1994. 8-1995. 7. Strix 14: 205-211.
 9. 佐々木 均・佐々木あさ子 (1999) 山形県酒田市飛鳥におけるヨーロッパコマドリの観察. Strix 17: 205-208.
 10. 山階鳥類研究所 (1997) 平成8年度環境庁委託調査渡り鳥アトラス 鳥類回収記録解析報告書 (スズメ目編 1961年~1995年).
 11. 山階鳥類研究所標識研究室 (1991) 平成2年度鳥類観測ステーション報告. (写真掲載は p. 10)
8. クロジョウビタキ *Phoenicurus ochruros* (表2)
- 日本鳥類目録改訂第6版では、記録として6例が挙げられており、全て亜種クロジョウビタキ *P. o. rufiventris* とされている。本委員会の調査により、文献上12例の記録が確認された (表2)。
- 記録1 (日本野鳥の会 1985b) は、石川県舩倉島で記録されたもので、羽色などの形態や行動についての記述と「日本での初記録」との解説が掲載されている。この記録は、日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1986)、Brazil (1991) にも掲載されている。同一個体の写真は、日本野鳥の会石川支部 (1990)、橋 (1999)、五百沢ら (2000) にも掲載されているが、五百沢ら (2000) では写真が裏焼きの状態で印刷されている。なお、石川県 (1998) に記録年月日が1984年5月4日の記録が掲載されているが、この記録の解説として「舩倉島で雌1羽が観察・撮影され、これが日本初記録となった」と記述されていることから明らかなように記録1と同一のものであり、記録月日は誤植もしくは誤記である。
- 記録2 (日本野鳥の会 1985a) は、山口県萩市見島で記録されたもので、羽色などの形態と行動、鳴き声などに関する記述が掲載されている。この記録は、日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1986)、Brazil (1991) にも掲載されているが、日本野鳥の会野鳥記録委員会 (1986) では、記録年月日が1985年4月29日のみとなっており、岡本恭治氏による同日・同島 (観音崎) における同一個体の観察記録も併記されている。なお、同一個体の写真は、日本野鳥の会 (1988a) にも掲載されている。
- 記録3 (田沢 1990) は、北海道知床岬で記録さ

表2. クロジョウビタキ *Phoenicurus ochruros*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1984.4.15	石川 県	輪島市舳倉島	—	メス	1	関 幸良, 鳥根律子, 広瀬弘一	観察, 撮影	モノクロ1, 関 幸良	15	3, 9, 8, 22, 24, 29
2	1985.4.29-30	山口 県	山口県萩市見島	—	オス	1	竹中 敏, 杉山 直	観察, 撮影	モノクロ1, 竹中 敏	14	3, 16, 24
3	D 1986.4.25	北海道	知床岬先端部 又吉湾	—	—	1	田沢道広, 嶋田, 矢部他	観察	—	32	3, 6, 10, 11, 13, 20, 30, 31, 32, 35, 36
4	D 1987.2.-3.30	埼玉 県	浦和市中尾	—	メス	1	海老原美夫, 草間和子	観察	—(関連文献にあり)	25	3, 4, 12
5	D 1988.1.17-3.30	埼玉 県	浦和市中尾	—	メス	1	海老原美夫, 草間和子	観察	—(関連文献にあり)	25	3, 5, 28, 17
6	D 1995.1.8	茨城 県	取手市下高井 山の坊	—	—	1	中野奈保美, 堀加津子	—	—	18	21, 32, 34
7	1996.4.6	沖縄 県	八重山郡竹富町 西表島クモツタ	—	—	1	庄山 守	観察, 撮影	カラー1, 庄山 守	1	—
8	1996.4.19	石川 県	輪島市舳倉島	—	—	1	野村 明	観察, 撮影	カラー1, 野村 明	2	—
9	D 1996.4.21	京都 府	京都市八幡市 三川合流地域	—	メス	1	今井健二, Neil Davidson, 菅野 宏, 菅野美佳, 風間一範, 風間節子, 西川 猛	観察, 撮影	—	27	19
10	1998.5.11-12	北海道	積丹町来岸	—	メス?	1	佐藤領江子	観察, 撮影	モノクロ1, 佐藤領江子	7	6, 35
11	1999.3.24	沖縄 県	久米島仲里村比嘉	第1回夏羽	オス	1	高原建二	観察, 撮影	モノクロ1	32	8
12	1999.4.10-11	北海道	余市町栄町 (大浜中)	—	オス	1	山田忠重, 荻野貴美子, 志賀英子, 梅木賢俊	観察, 撮影	モノクロ1	35	6

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

れたもので、記録年月日、場所などの基本的な記述と記録された環境が林であったことが記述されている。この記録は、梶 (1986)、中川 (1988)、山田 (1989)、Brazil (1991)、高田 (1991a, 1991b)、日本野鳥の会北海道ブロック支部連絡協議会 (1991)、梅木 (1999)、藤巻 (2000)、川崎 (2001) にも掲載されており、梶 (1986) には、記録された時間が12:00–12:30であったことが、Brazil (1991) および梅木 (1999) には、記録された個体がオスであったことが、それぞれ記述されている。ただし、Brazil (1991) では、田澤道広氏からの私信に基づき、記録年月日が1986年4月29~30日と記述されている (原文英語)。この点につき、田澤道広氏に問い合わせたところ、実際には1986年4月25日のみ観察されたとの回答を得た。従って、Brazil (1991) の記録日は、誤植または誤記である。この誤りは、そのまま高原ら (2000) にも引用されている。また、藤巻 (2000) では、記録月が6月となっているが、この記述の引用文献として示されている高田 (1991a) では4月となっていることから、これも誤植または誤引用である。

記録4 (日本野鳥の会野鳥記録委員会1988) は、埼玉県浦和市で記録されたもので、記録年月日、場所などの基本的な記述のみが掲載されている。この記録は、Brazil (1991) にも掲載されている。なお、無記名 (1987) には、「ジョウビタキ♀と思われるヒタキ」として、記録4の個体のモノクロ写真1枚が掲載されており、海老原 (1987) には、「種名不明の個体」としてではあるが、同個体の発見の経緯、記録された場所、形態や行動について詳細に記述されている。

記録5 (日本野鳥の会野鳥記録委員会1988) は、埼玉県浦和市で記録されたもので、記録年月日、場所などの基本的な記述のみが掲載されている。同記録は、海老原 (1988) にも掲載されており、海老原 (1988) には、記録された場所が記録4と同じで、同じツバメの巣を塹として利用していたことなどが記述され、モノクロ写真4枚が示されている。その他、この記録は、日本野鳥の会 (1988b)、日本野鳥の会埼玉県支部 (1988)、Brazil (1991) にも掲載されている。

記録6 (日本野鳥の会1995) は、茨城県取手市で記録されたもので、記録年月日、場所、個体数、記録者のみの記述しかない。なお、日本野鳥の会野鳥記録検討会 (1996) には、この記録が掲載されていない。写真がないために「参考記録」となったとのことである (堀加津子氏私信)。記録された

場所が民家の庭であること、記録された個体がオスであることやその形態、行動については、日本野鳥の会茨城支部 (1995) および、とりで鳥の会 (1995) に掲載されている (とりで鳥の会 (1995) では、「ジョウビタキ sp.」として記述)。なお、この記録は、高原ら (2000) にも掲載されているが、記録地が「千葉県取手市」と誤記されている。

記録7 (バーダー編集部1997a) は、沖縄県西表島で記録されたもので、発見の経緯について簡単な記述が掲載されている。また、沖縄県初記録との解説が掲載されている。

記録8 (バーダー編集部1997b) は、石川県舩倉島で記録されたもので、記録年月日、場所などの基本的な記述のみが写真のキャプションとして掲載されている。また、写真掲載とは異なるページ (p. 107) に撮影時の状況について簡単な記述が掲載されている。

記録9 (日本野鳥の会野鳥記録検討会1997) は、京都府八幡市で記録されたもので、記録年月日、場所などの基本的な記述のみが掲載されており、観察時の状況などは掲載されていない。また、「写真あり」と記述されているが、掲載はされていない。この記録は、日本野鳥の会 (1996) にも掲載されている。

記録10 (北海道野鳥愛護会広報部1998) は、北海道積丹町で記録されたもので、観察時の状況についての簡単な記述が掲載されている。この記録は、梅木 (1999) にも掲載されている。

記録11 (高原ら2000) は、沖縄諸島久米島で記録されたもので、観察時の状況についての記述が掲載されている。同一と思われる個体の写真は、五百沢ら (2000) にも掲載されている。

記録12 (梅木1999) は、北海道余市町で記録されたもので、発見の経緯や行動に関する記述が掲載されている。また、梅木 (1999) は、北海道内における本種の記録が掲載されている文献 (中川1988、田沢1990、日本野鳥の会北海道ブロック支部連絡協議会1991、高田1991b、北海道野鳥愛護会広報部1998) を整理、解説したうえで、この個体が上記、記録3, 10に続き、北海道内3例目であると考察している。

このほか、日本野鳥の会石川支部 (2000) の「石川県年別記録リスト」によれば、1989年と1990年に石川県舩倉島にて記録されている。しかし、記録年以外の情報が全く不明であり、他にこの記録の詳細を記述した文献も見つけられなかったため、現時点では参考としてあげるにとどめる。

また、日本鳥類目録第6版掲載の6記録のうち、北海道1984年4月、北海道1999年6月の2記録は、梅木(1999)が整理した3例の北海道内記録と記録年月が一致しないことから明らかなように、誤植もしくは、誤記である。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(1997a)1996年、日本に舞い降りた珍鳥たち。BIRDER 11(6): 44-49.
 2. バーダー編集部(1997b)写真集日本の鳥1996。文一総合出版。(写真の掲載は、p. 94)
 3. Brazil MA (1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.
 4. 海老原美夫(1987)ツバメの巣をめぐらした種名不明の個体。シラコバト(39): 7.
 5. 海老原美夫(1988)謎のヒタキの正体判明なんとクロジョウビタキ。シラコバト(47): 7.
 6. 藤巻裕蔵(2000)北海道鳥類目録改訂2版。帯広畜産大学野生動物管理学研究室。
 7. 北海道野鳥愛護会広報部(1998)野鳥記録三題。北海道野鳥だより(113): 6-7.
 8. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000)日本の鳥550 山野の鳥。文一総合出版。(写真の掲載は、p. 169)
 9. 石川県(1998)石川県の自然環境シリーズ 石川県の鳥類。
 10. 梶 光一(1986)知床岬エゾシカ調査-調査の概要。ワイルドライフレポート(4): 38-41.
 11. 川崎康弘(2001)網走支庁管内鳥類目録 北海道・オホーツク圏で確認された鳥類。知床博物館研究報告(22): 55-68.
 12. 無記名(1987)私はだれでしょう。シラコバト(36): 7.
 13. 中川 元(1988)知床の動物群集 3 鳥類 知床の動物: 59-121.
 14. 日本野鳥の会(1985a)野鳥情報-観察記録。野鳥 50(8): 34.
 15. 日本野鳥の会(1985b)野鳥情報-観察記録。野鳥 50(11): 32.
 16. 日本野鳥の会(1988a)日本に舞い降りた野鳥たち。野鳥 53(4): 10-21.
 17. 日本野鳥の会(1988b)フィールドノート。野鳥 53(7): 39.
 18. 日本野鳥の会(1995)フィールドノート。野鳥 60(8): 49.
 19. 日本野鳥の会(1996)フィールドノート。野鳥 61(9, 10): 54.
 20. 日本野鳥の会北海道ブロック支部連絡協議会(1991)北海道地域別鳥類リスト。
 21. 日本野鳥の会茨城支部(1995)鳥だより。ひばり(207): 17-19.
 22. 日本野鳥の会石川支部(1990)石川の自然 野鳥。日本野鳥の会石川支部。(写真の掲載は、p. 149)
 23. 日本野鳥の会石川支部(2000)石川野鳥年鑑1999.
 24. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1986)野鳥情報・観察記録1984. 9-1986. 7. Strix 5: 89-98.
 25. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1988)野鳥情報・観察記録1988. 1-1988. 12. Strix 7: 305-308.
 26. 日本野鳥の会野鳥記録検討会(1996)野鳥情報・観察記録1994. 8-1995. 7. Strix 14: 205-211.
 27. 日本野鳥の会野鳥記録検討会(1997)野鳥情報・観察記録1995. 8-1996. 7. Strix 15: 149-160.
 28. 日本野鳥の会埼玉支部(1988)野鳥情報。シラコバト(48): 7.
 29. 橋 映州(1999)舳倉の鳥たち。橋本確文堂。(写真の掲載は、p. 160)
 30. 高田 勝(1991a)根室支庁管内鳥類リスト。根室市博物館開設準備室紀要(5): 1-19.
 31. 高田 勝(1991b)根室支庁管内鳥類リスト。ワイルドライフレポート(12): 79-98.
 32. 高原建二・池長裕史・金城道男・渡久地豊・金城輝雄・庄山 守(2000)沖縄県において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について「沖縄県産鳥類目録」補遺。沖縄県立博物館紀要(26): 27-46.
 33. 田沢道広(1990)知床半島羅臼町管内の鳥類リスト。知床博物館研究報告(11): 21-27.
 34. とりで鳥の会(1995)鳥情報。とりでの鳥(24): 11.
 35. 梅木賢俊(1999)オオチドリとクロジョウビタキ。北海道野鳥だより(116): 12-13.
 36. 山田良造(1989)北海道に舞い降りた迷鳥たち(2)。北海道野鳥だより(77): 5.
9. シロビタイジョウビタキ *Phoenicurus phoenicurus* (表3)
- 日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上2例の記録が確認された(表3)。
- 記録1(平野・橋2002)は、石川県舳倉島で記録されたもので、観察時の状況、形態の特徴や行動などについて詳細な記述が掲載されている。それによれば、この個体は羽色の特徴から成鳥冬羽と判断されている。加えて、平野・橋(2002)は、記録された個体は亜種 *P. p. phoenicurus* であると考察している。この個体の発見時の状況は、高瀬(1999)にも詳述されている。また、この記録と同一個体の写真は、バーダー編集部(1999a, 1999b)、日本野鳥の会石川支部(1999)、橋(1999)、五百沢ら(2000)に掲載されている。このうち、バーダー編集部(1999b)には、撮影者の大谷暢彦氏による、撮影時の状況や鳴き声などの記述が掲載されている。
- 記録2(真木・大西2000)は、記録1と同じ石川県舳倉島で記録されたものであるが、記録年月

と場所のみの記述しかない。なお、この記録は、日本野鳥の会石川支部 (2000) には掲載されていない。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部 (1999a) 日本を訪れた珍客たち. BIRDER 13 (2): 10–26, 30–39.
2. バーダー編集部 (1999b) 写真集日本の鳥 1998. 文一総合出版。(写真の掲載はp. 85)
3. 平野賢次・橋 映州 (2002) 日本におけるシロピタイジョウビタキの初記録. Strix 20: 175–177.
4. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版。(写真の掲載はp. 169)
5. 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥 590. 平凡社.
6. 日本野鳥の会石川支部 (1999) 石川野鳥年鑑 1998. (写真の掲載はp. 44)
7. 日本野鳥の会石川支部 (2000) 石川野鳥年鑑 1999.
8. 橋 映州 (1999) 舳倉の鳥たち. 橋本確文堂。(写真の掲載はp. 160)
9. 高瀬久義 (1999) シロピタイジョウビタキとの出会い. BIRDER 13 (8): 73.

10. セアカジョウビタキ *Phoenicurus erythronotus* (表4)

日本鳥類目録改訂第6版発行後に記録された種である。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表4)。

記録1 (小杉 2001) は、北海道利尻富士町 (利尻島) で記録されたもので、観察時の状況、観察された個体の形態、行動、観察された場所の環境などについての記述が掲載されている。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 小杉和樹 (2001) セアカジョウビタキ *Phoenicurus erythronotus* の観察記録 (速報). 北海道野鳥だより (123): 12.

11. コンヒタキ *Cinclidium leucurum* (表5)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表5)。

記録1 (真木・大西 2000) は、長崎県男女群島で記録されたものであるが、「1997年5月に長崎県男女群島で、標識調査中に雄1羽が捕獲された」との記述が掲載されているのみで、正確な記録地、

記録日、記録者は不明であり、該当個体の写真の掲載もない。なお、「標識調査中に捕獲された」と記述されているが、同年度の環境庁鳥類標識調査の記録を収めた山階鳥類研究所 (1998) には、本種の記述がない。このことから、環境庁の鳥類標識調査においての捕獲ではなく、学術調査など他の捕獲調査によって記録されたものであると考えられる。この記録の詳細は、新聞記事(朝日新聞・読売新聞)に掲載されているが、引用可能な文献としては、未だ公表されていない。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥 590. 平凡社. 654 pp.
2. 山階鳥類研究所 (1998) 平成9年度環境庁委託調査鳥類標識調査報告書 (鳥類観測ステーション運営). 221 pp.

12. マミジロノビタキ *Saxicola rubetra* (表6)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表6)。

記録1 (高原ら 2000) は、沖縄県大宜味村で記録されたもので、記録された個体の行動やノビタキとの形態的な相違点に関する記述が掲載されている。なお、撮影されたことが明記されているが、掲載はされていない。また、高原ら (2000) で、「その他1名」と記されている記録者の姓名は、美野光哉氏とのことである (中山文仁氏私信)。この記録は、真木・大西 (2000) にも掲載されている。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥 590. 平凡社.
2. 高原建二・池長裕史・金城道男・渡久地豊・金城輝雄・庄山 守 (2000) 沖縄県において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等により確認された興味深い鳥類の記録について 「沖縄県産鳥類目録」補遺. 沖縄県立博物館紀要 (26): 27–46.

13. クロノビタキ *Saxicola caprata* (表7)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表7)。

表3. シロビタイジヨウビタキ *Phoenicurus phoenicurus*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1998.11.1-4	石川 県	輪島市海士町 舳倉島	成鳥冬羽	—	1	高瀬久義, 平野賢次, 楠 映州	観察, 撮影	モノクロ1, 楠 映州	3	1, 2, 6, 8, 9, 4
2	D	石川 県	輪島市舳倉島	—	—	—	—	—	—	5	—

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

表4. セアカジヨウビタキ *Phoenicurus erythronotus*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	2000.10.21	北海道	利尻富士町鬼脇 ヤムナイ沢	成鳥	オス	1	小杉和樹, 佐藤雅彦, 坂本里恵	観察, 撮影	モノクロ1, 佐藤雅彦	1	—

—: 記述なし・掲載なし

表5. コンヒタキ *Cinclidium leucurum*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1997.5.	長崎 県	男女群島	—	オス	1	—	捕獲	—	1	—

—: 記述なし・掲載なし

表6. マミジロノビタキ *Saxicola rubetra*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1998.9.23	沖縄 県	大宜味村喜如嘉	第1回冬羽	—	1	有山智樹, 小林竜也, 中山文仁他1名	観察, 撮影	—	2	1

—: 記述なし・掲載なし

記録1 (五百沢 1991) は、沖縄県与那国島で記録されたもので、ノビタキと行動が似ていることや地鳴きについての記述が掲載されている。また、「*S. c. caprata* が写真のものと考えるが、どの本にもオスの羽の亜種間の差について書かれていないので、はっきりしたことは不明である。分布上飛来する可能性は高い。」との記述がある。この記録は、Brazil (1991), McWhirter *et al.* (1996), 真木・大西 (2000) にも掲載されている。このうち、McWhirter *et al.* (1996) は、五百沢 (1991) を引用していることが明記されているが、Brazil (1991) は、私信 (Cook *in litt.*) を元に記述している。なお、Brazil (1991) では、本文、索引ともに、和名がクロコビタキ (原文ローマ字表記) となっている。記録期間中に撮影された同一個体の写真は、バーダー編集部 (1993, 1999), 五百沢ら (2000) にも掲載されている。

なお、この他に2002年に本種が宮古島にて記録されたことを新聞 (沖縄タイムス) が報じているが、引用可能な文献としては、未だ公表されていない。

引用文献 (文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部 (1993) 続珍鳥・迷鳥大集合。BIRDER 7 (7): 8, 9, 12, 13.
2. バーダー編集部 (1999) 日本を訪れた珍客たち BIRDER 13 (2): 10-26.
3. Brazil MA. (1991) *The birds of Japan*. Christopher Helm, London.
4. 五百沢日丸 (1991) 与那国島のシロガシラ. 日本の生物 5 (3): 44-47.
5. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸 (2000) 日本の鳥 550 山野の鳥. 文一総合出版。(写真の掲載は、p. 172)
6. 真木広造・大西敏一 (2000) 日本の野鳥 590. 平凡社.
7. Mc Whirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M & Takehara K (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa prefectural Museum (22): 33-152.

14. ヤマザキヒタキ *Saxicola ferrea* (表8)

日本鳥類目録改訂第6版では、記録として6例が挙げられており、全て亜種ヤマザキヒタキ *S. f. haringtoni* とされている。本委員会の調査により、文献上9例の記録が確認された (表8)。

記録1 (日本野鳥の会 1979) は、鹿児島県屋久島で記録されたもので、記録された個体の形態や

行動、鳴き声などについての記述が掲載されている。この記録は、川路ら (1987), Brazil (1991) にも掲載されている。

記録2 (日本野鳥の会 1983) は、沖縄県西表島で記録されたもので、記録された個体の形態や行動についての記述が掲載されている。この記録は、Brazil (1991), Mc Whirter *et al.* (1996) にも掲載されている。

記録3 (日本野鳥の会 1985) は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録された個体の形態や行動、鳴き声などについての記述が掲載されている。この記録は、Brazil (1991), Mc Whirter *et al.* (1996) にも掲載されており、バーダー編集部 (1993), 五百沢ら (2000) に写真が掲載されている。

記録4 (佐賀野鳥の会 1997) は、佐賀県の離島加唐島 (かからじま) で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者のみが掲載されている。記録者の福田 司氏からの私信によれば、観察されたのは、オス1個体、観察のみで写真撮影はできなかったとのことである。

記録5 (日本野鳥の会野鳥記録委員会 1988) は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録年月日、場所、個体数、記録者などの基本的な記述のみが掲載されている。また、写真ありと明記されているが、掲載はされていない。この記録は、日本野鳥の会 (1988), Brazil (1991) にも掲載されているが、いずれにも観察時の状況の記述や写真は掲載されていない。なお、Brazil (1991) は、この記録の出典として「STRIX Vol. 6」を引用しているが、これは誤植または誤記である。

記録6 (Mc Whirter *et al.* 1996) は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録年月日、場所、個体数、観察者のみが掲載されている。Mc Whirter *et al.* (1996) は、「冬季、与那国島においては、この鳥が時折目撃されている」(原文英語) と記述しているが、具体的な冬季の記録としては、この記録6を示しているのみである。

記録7 (バーダー編集部 1999a) は、石川県舳倉島で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者のみが掲載されている。バーダー編集部 (1999b) には、この個体の写真とともに「解説」が掲載されているが、写真の個体に関する記述は全く含まれていない。

記録8 (橋 1999) は、石川県舳倉島で記録されたもので、記録年月日、場所、記録者など基本的な記述のみが掲載されている。記録期間中に撮影された写真は、バーダー編集部 (1997), 五百沢ら

(2000)にも掲載されている。バーダー編集部(1997)には、撮影者の土橋信夫氏により「30分に一度くらい餌を捕りにきてくれた」とのコメントが掲載されている。

記録9(バーダー編集部 2001a)は、沖縄県与那国島で記録されたもので、記録月日、記録場所、記録者など基本的な記述と第1発見者は鈴木 功氏であることが掲載されている。なお、記録年は明記されていないが、掲載雑誌の巻号から2001年と特定される。この記録は、バーダー編集部(2001b)にも掲載されており、記録月日が3月16~20日と記述されている。

その他、真木・大西(2000)に舩倉島で10月に撮影されたオス第1回冬羽個体の写真が掲載されているが、記録年は示されていない。真木広造氏・大西敏一氏からの私信によれば、この個体の撮影年は1996年で、記録8と同一個体であり、少なくとも同年10月1日までは舩倉島に滞在していたとのことである。今のところ、これらのことについて言及した文献は確認されていないことから、現時点では参考として挙げるにとどめる。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(1993)八重山の鳥カタログ。BIRDER 7(3): 8, 9, 12, 13, 16, 17, 19, 22, 23.
2. バーダー編集部(1997)写真集日本の鳥1996。文一総合出版。(写真掲載はp. 95)
3. バーダー編集部(1999a)日本を訪れた珍客たち。BIRDER 13(2): 10-26.
4. バーダー編集部(1999b)日本を訪れた珍客たち-解説編。BIRDER 13(2): 30-39.
5. バーダー編集部(2001a)最近何か出てますか? 野鳥情報ネットワーク。BIRDER 15(5): 74-79.
6. バーダー編集部(2001b)最近何か出てますか? 野鳥情報ネットワーク。BIRDER 15(6): 80-84.
7. Brazil MA (1991) The birds of Japan. Christopher Helm, London. 466 pp.
8. 五百沢日丸・山形則男・吉野俊幸(2000)日本の鳥550 山野の鳥。文一総合出版。360 pp。(写真の掲載はp. 169)
9. 川路則友・安部淳一・高良武信・溝口文男・松下義範・沼 秀昭・今村克行(1987)鹿児島県産鳥類目録。STRIX 6: 20-30.
10. 真木広造・大西敏一(2000)日本の野鳥 590。平凡社。654 pp.
11. Mc Whirter DW, Ikenaga H, Iozawa H, Shoyama M &

Takehara K (1996) A Check-list of the birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of the Okinawa prefectural Museum (22): 33-152.

12. 日本野鳥の会(1979)短報-野鳥情報-。野鳥 44(8): 46-47.
13. 日本野鳥の会(1983)野鳥情報-稀少鳥, 迷鳥, 新記録。野鳥 48(7): 32.
14. 日本野鳥の会(1985)野鳥情報-観察記録。野鳥 50(4): 34.
15. 日本野鳥の会(1988)フィールドノート。野鳥 53(9): 31.
16. 日本野鳥の会野鳥記録委員会(1988)野鳥情報・観察記録 1988. 1-1988. 12. STRIX 7: 305-308.
17. 佐賀野鳥の会(1997)佐賀の野鳥。佐賀県農林部森林整備課。116 pp.
18. 橋 映州(1999)舩倉島の鳥たち。橋本確文堂。179 pp。(写真の掲載はp. 160)

15. カワビタキ *Rhyacornis fuliginosus* (表9)

日本鳥類目録改訂第6本文には掲載されておらず、Appendix B検討中の種・亜種にも含まれていない。本委員会の調査により、文献上1例の記録が確認された(表9)。

記録1(バーダー編集部 1997)は、東京都北区で記録されたものであるが、「留鳥性が強く渡りは行わないので、日本で記録される可能性は低いと思われる。」と記述した上で、記録された個体を「かご抜けの個体であろう」としている。ただし、上記理由以外、かご抜けとする根拠についての記述はない。

引用文献(文献番号は、表中の出典および関連文献欄の数字に対応)

1. バーダー編集部(1997)かご抜け鳥の世界。BIRDER 11(3): 10-26.

この報告をまとめるにあたり、文献の提供、記録内容の確認などに協力していただいた、天野洋祐氏、柿崎 悟、梅木賢俊氏、海老原美夫氏、大西敏一氏、黒田治男氏、田澤道広氏、中川 元氏、中山文仁氏、平野賢次氏、福田 司氏、堀加津子氏、真木広造氏、斜里町立知床博物館、根室市博物館開設準備室には、心よりお礼申し上げます。

表7. クロノビタキ *Saxicola caprata*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1989.1.24-3.2	沖縄県	与那国島さんにぬ台	第1回冬羽	オス	1	五百沢日丸	観察, 撮影	カラー1, 五百沢日丸	4	1, 2, 3, 5, 6, 7

—: 記述なし・掲載なし

表8. ヤマガキヒタキ *Saxicola ferrea*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1979.3.31-4.2	鹿児島県	屋久島栗生	—	オス	1	日本大学農 獣医学部動 植物研究会 鳥類班	観察, 撮影	モノクロ2, 小島	12	7, 9
2	1983.4.4-6	沖縄県	西表島	成鳥夏羽	オス	1	安部淳一, 安部文子	観察, 撮影	モノクロ1, 安部淳一	13	7, 11
3	1984.3.16, 18	沖縄県	与那国島	—	オス	2	長谷川貴生, 中野和彦, 宮原俊彦, 森 敬祐, 私市一康, 福田恭子, 藤崎完治, 佐伯昌彦, 相川健一郎	観察, 撮影	モノクロ1, 私市一康	14	1, 7, 8, 11
4	D 1986.4.13	佐賀県	鎮西町加唐島	—	—	—	福田 司	—	—	17	—
5	D 1988.3.21-22	沖縄県	八重山郡与那国島	—	オス	1	渡部良樹	観察, 撮影	—	16	7, 15
6	D 1990.2.17	沖縄県	与那国島	—	—	1	五百沢日丸	観察	—	11	—
7	P 1996.5.17	石川県	舳倉島	—	—	1	野村 明	撮影	カラー1, 野村 明	3	4
8	P 1996.9.27-29	石川県	舳倉島	—	オス	1	橋 映州	観察, 撮影	カラー1, 橋 映州	18	2, 8
9	D 2001.3.18	沖縄県	与那国島東崎	—	オス	1	鈴木 功, 土方秀行	観察	—	5	6

—: 記述なし・掲載なし

D: 最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

P: 写真と最小限の記述(種名, 記録地, 年月日, 場所, 記録者など)のみ

表9. カワビタキ *Rhyacornis fuliginosus*

No.	記録年月日	都道府県	地名	年齢	性別	個体数	記録者	状況	写真の掲載, 撮影者	出典	関連文献
1	1987.3.26	東京都	北区王子石神井川	—	—	1	私市一康	撮影	カラー1, 私市一康	1	—

—: 記述なし・掲載なし